

白糠のアイヌ語地名

和天別川筋のアイヌ語地名

第3回(最終回)

○シャチホロ川

「シャチホロ川」は、河原地区で和天別川から分かれて南西方向へ向かっている川です。

「シャチリサツ(乾いた)・ホロ(水)」という意味から、「水量の少ない乾いた川」のことを言います。

古地図には「シャチオロ」と記載されているものがありますが、白糠地名研究会は「サツ(乾いている)・オロ(ところ)」という意味で、シャチホロと同じく乾いているところを表すと説明しています。

で、どちらも水の流れが見えない川を表しています。

札幌も「サツ」がつく地名で、市のホームページでは、「サツ(乾いた)・ポロ(大きな)・ペツ(川)」と「サリ(その葦原が)・ホロ(広大な)・ペツ(川)」という2つの説が紹介されています。

北海道の名付け親として知られる探検家の松浦武四郎は『西蝦夷日誌』の中で、「サツボロはサツテボロの儀にて、多く乾くの儀。此川急にして干安き故也」と記し、アイヌ語地名研究家の山田秀三は、『北海道の地名』で、いくつかの説を分析して「サツ・ポロ・ペツ」ぐらいに解するのが自然のような気がする」と、松浦武四郎の説をとっています。

【参考・『新版 蝦夷日誌』下「西蝦夷日誌」、『北海道の地名』】

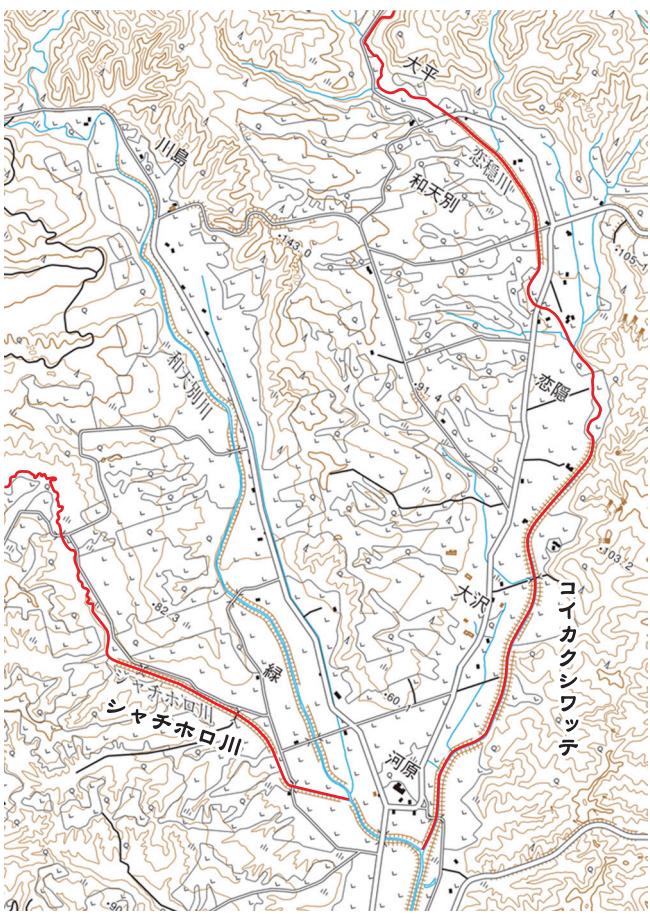
■波が上を通る

貫塩喜蔵工カシは、『白糠のアイヌ語地名』でコイカクシについて「コイ・カは、波の上(かみ)と解すれば東方という意味になるが、コイ・カを波の上(うえ)と解することもできる。これにクシ

をつけると、波が上を通るという意味になる。津波が恋隠の火の見やぐらあたりまで押し寄せてきて、その名がついた」と、津波伝説をもとにした解釈を述べています。

コイカクシワツテは、アイヌの先人が、この地まで波が川をさかめに付けた地名かもしれません。

平成25年5月から、65カ所の地名を紹介して参りました『白糠のアイヌ語地名』は、今回が最終回です。長い間ありがとうございました。



■乾いた川

「サツ」が付く地名として、茶路川筋の「オサツペ」は、「オ(川尻が)・サツ(かれている)・ペ(ところ)」という意味があり、また、庶路川筋の「サツテクナイ」も「サツテク(干せている、乾い